

平成 25 年度継続事業に関する継続評価書

研究機関 : NEC(株)、(株)KDDI 研究所
研究開発課題 : 「モノのインターネット」時代の通信規格の開発・実証
研究開発期間 : 平成 24 ～ 25 年度
代表研究責任者 : 西原 基夫

■ 総合評価 : (適)

(評価点 16 点 / 25 点中)

(総論)

全体的に、研究開発の継続が適した実施内容となっており、引き続き、研究開発を推進することが適当である。

(コメント)

- ターゲットの市場を考慮したユースケースを想定したことは評価できる。
- 実用化への道筋、産業戦略に基づき、成果の目標及び実施計画が策定されていることが重要である。
- 国内産業事業の強化にも繋がる方向で進めて頂きたい。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 4点

(総論)

当初の計画通りであり、目標は達成見込みにある。

(コメント)

- 大規模シミュレータの開発が計画以上に進んでいる点は評価できる。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

(総論)

当初の計画通りであり、適切に使用されている。

(コメント)

- 研究開発計画に沿って、適切に使用されている。

(3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

(総論)

概ね妥当であるが、事業展開に繋がるよう、引き続き研究開発に取り組むことが重要である。

(コメント)

- M2M の普及規模予測を行いつつ、多様な状況に対応できるシステムを目指している点は評価できる。
- 事業展開を見据えていると思うが、実施計画において、実証実験、標準化戦略、運営体制、予算措置などを明記できると良い。
- 将来の市場規模を考慮して複数のユースケースを検討した点は評価できる。それらのユースケースにおいて、受託者あるいは日本が国際競争に勝つ戦略に基づき、強化ポイントを明確にできると良い。
- システム統合、実証実験の計画を明記できると良い。
- 実用化、事業展開においては、受託者以外のプレーヤーも参加する必要があるかもしれない。そのために必要な成果も想定した計画が望ましい。
- 本分野の競争は激化しているので、先取り項目もあると良い。

(4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

(総論)

概ね妥当である。

(コメント)

- 本研究開発を進める上で、特に申し分ない。
- 実証実験の予算を明確にできると良い。

(5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

(総論)

運営委員会の設置により、実施体制は強化された。今後は、研究機関二者の連携の強化が望まれる。

(コメント)

- 運営委員会を立ち上げ、研究開発全体の方向性を管理するようになったことは評価できる。
- 開発途中でも PDCA サイクルがあると更に良い。
- 技術検討会の開催回数が 2 回のみであり、研究機関二者間における具体的なシステム統合に向けた進捗管理、共同事業展開などを密に協議する体制の強化が望まれる。